



防ごう! コロナフレイル

ん だんだ講座が1月19日(水)に、虹のプラザで行われ、町内から10人が参加しました。

だんだ講座とは、地域包括支援センターと社会福祉協議会の職員、保健師などが各地区公民館などに出向いて、地域で安心・安全に過ごすためのアドバイスをしたり、地域の福祉に関する困りごとなどを伺ったりする出前講座のことです。

この日は、地域包括支援センターや社会福祉協議会、町保健福祉課の職員らによる認知症予防運動講座が行われたほか、コロナフレイル*の危険性を呼びかける寸劇が披露されました。

寸劇を企画した地域包括支援センターの関智恵子さんは、「コロナ禍でも感染症対策を行いながら、社会とのつながりを失わず、体を動かし、人との交流を維持していくことが重要です。」と話していました。

*コロナ禍で外出回数が減ったなどの理由で、心身の活力を含む生活機能が低下し、要介護状態となるリスクが高くなった状態。



ジャパングリエイト(株)が消毒液を寄贈

ジ ャパングリエイト株式会社(柏倉巧代表)が1月24日(月)に役場を訪れ、消毒液約72リットル(一斗缶×4缶)を寄贈しました。

これは、柏倉代表の「子どもたちに新型コロナウイルスに感染しないで元気に過ごしてほしい」という思いから寄贈されたもので、令和2年にも消毒液約36リットル(1リットル×36本)を寄贈いただいています。

寄贈いただいた消毒液は、町内の小中学校で活用させていただきます。大変ありがとうございました。



中学生が手作りキャンドルを寄贈

大 石田中学校の生徒12人が、手作りキャンドルを寄贈しました。この取り組みは、生徒たちの「町を明るくしたい」との思いから実施されたもので、企画から作成まですべて生徒の力で行われています。

キャンドルの材料となる「ロウ」は、乗船寺(安達良信住職)で廃棄予定だった使用済みのろうそくを使っており、カラフルに色付けされて素敵なキャンドルに生まれ変わりました。

グループをまとめる早坂凛さんは「最初は雪像を作って町を盛り上げる予定でしたが、コロナの拡大で中止になりキャンドル作りをすることになりました。これで町を明るくしたいです。」と話していました。

寄贈いただいたキャンドルは、雪灯ろう街道の雪像の明かりとして活用させていただきます。大変ありがとうございました。



海藤仁 行政相談委員が総務大臣表彰を受ける

こ の度、海藤仁さん(坂ノ上)が総務大臣表彰を受けました。これは、海藤さんが大石田町担当の行政相談委員として17年の長きにわたり活動され、毎月の定例相談会を欠かさず開催し、行政機関などの業務に関する町民からの苦情の相談に応じ、その課題の解決に日々ご尽力いただいた功績が認められたものです。大変おめでとうございます。



山形大学の学生が雪問題解決のアイデアを提案

町 が抱える雪などの問題を解決しようと、山形大学の学生によるアイデア発表会が1月22日(土)に虹のプラザで行われました。

山形大学とは、平成27年度に地方創生に関する連携覚書を締結し、雪の問題や若者の町への定着などをテーマに学生と地域住民との交流事業を行っており、昨年は感染症拡大防止のため、インターネットを使ったビデオ通話で同様の発表会を行っています。

発表会に参加した学生たちは、「ShareVillage*を活用して都会から人を呼ぶ」や「流行りのテントハウスで集客したい」、「流雪溝のふたをハイテン材に変えて女性や高齢者でも使いやすくする」など雪問題の解決案を提案していました。

*年会費を支払うことで古民家を利用したり、田舎体験ができるサービスのこと。



山形大学の学生が高齢者宅などを除雪ボランティア

山 形大学の学生による除雪ボランティアが、1月22日(土)に町内で行われました。

これは、同日に行われた雪問題解決アイデア発表会後に実施されたものです。除雪道具の使い方などは、町内の除雪ボランティア団体「スノーバスターズ」から指導を受け、社会福祉協議会の協力のもと行われました。

参加した学生の中には、山形県に来るまで雪を見たことがなかった方もいて、想像以上に力を使うハードな作業に驚いていました。

大変ありがとうございました。

